

SAPPORO

【酪農編】

文化財散歩

さつぽろ

【発行】

札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会（事務局：札幌市市民文化局文化部文化財課）
札幌市中央区北1条西2丁目札幌時計台ビル10階 電話 011-211-2312

令和8年3月



令和7年度文化庁
文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）



酪農編ストーリー

札幌でめぐる酪農の歴史

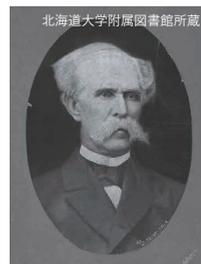
—酪農発展の礎を築いた人々—

日本に近代的な欧米型の大規模酪農が導入されたのは明治時代初期。日本政府は、その範を米国に求めました。さまざまな技術がお雇い外国人から伝えられ、特に北海道は、広大な土地、風土に合わせて米国型酪農が展望されました。その普及の中心となったのが当時の札幌です。札幌で芽生えた酪農の試みは、民間人でも欧米に留学するなど本格的に酪農を学ぶ先駆者たちへ繋がれていきます。彼らは自ら牧場を経営して技術を磨き、力を結集して危機を乗り越え、酪農王国北海道の基礎を築き上げました。その発展の軌跡は、今も札幌のまちに残っています。

北海道畜産の普及拠点の一つ、札幌農学校

酪農は、牛などを飼育して乳をしぼり、牛乳やチーズなど乳製品の原料を生産する産業のこと。もともと日本にはなかった欧米型の農業です。未知の産業だった酪農は、北海道ではどのように始まったのでしょうか。

明治2年(1869年)、政府は北海道の開拓事業のため開拓使を設置しました。明治4年(1871年)、開拓使次官の黒田清隆は、米国政府農務局長だったホーレス・ケブロンを開拓使顧問として招聘。来日したケブロンは、寒冷な北海道の農業は本州のような稲作中心ではなく、家畜を取り入れた米国型の大規模な有畜農業を進めるべきであると提言します。これを受けて開拓使は、牛や羊などの家畜を輸入するとともに、技術を指導する外国人技術者を招聘しました。



明治4年(1871年)、開拓使顧問ホーレス・ケブロン



明治4年(1871年)、開拓使顧問ケブロンとお雇い外国人たち

また、開拓使は農業に携わる人材育成のため明治9年(1876年)に「札幌農学校(現北海道大学)」を設立します。初代教頭ウィリアム・スミス・クラークは農業の教育は実践が重要であると考えて農場を開設しました。場所は現在の北海道大学札幌キャンパス、北区北10条西6丁目付近です。

「農饗園」と呼ばれたこの農場は、1軒の大規模な畜産農家を模し、モデルバーン(模範家畜房)や穀物庫など一連の施設を備え、多数の畜力農具や外国種の牧草・家畜を導入し、北海道に酪農畜産を実践・普及する拠点となりました。



明治32年(1899年)頃、札幌農学校、モデルバーン前の洋牛と家鴨(アヒル)の群

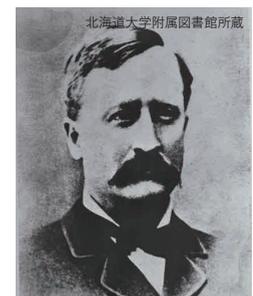
酪農の普及に努めたお雇い外国人、エドウィン・ダン

開拓使に招かれた外国人技術者の一人で、北海道酪農の普及に大きな功績を残した人物がエドウィン・ダンです。オハイオ州の牧場出身で酪農畜産の仕事を知っていたダンは、明治6年(1873年)から東京の第三官園(官園は開拓使が設置した農業に関

する試験・普及機関)で畜産技術の指導にあたりました。

明治9年(1876年)に札幌官園に赴任し、「開拓使真駒内牧牛場」を建設。約100ヘクタールの広大な土地で牧草を育て、牛や豚、羊を飼育し、バターやチーズ、練乳、ハム、ソーセージの試作を行い、酪農畜産の模範を示しました。また、札幌農学校の教師を兼務して学生の指導にあたりました。

その功績は多岐にわたりますが、家畜の輸入にはじまり、真駒内牧牛場と新冠牧馬場の創設、牧場の設計・運営、乳製品や食肉加工・製造の指導、獣医学や解剖学の実践・普及などがあげられます。



明治6年(1873年)頃、来日当時のエドウィン・ダン



明治10年(1877年)頃、真駒内牧牛場でブラウ(すき)をひく牛

ダンの教えを受け継ぐ弟子により、酪農が開花

札幌農学校の第2期生・町村金彌は農学校卒業後に真駒内牧牛場に勤め、直接ダンから酪農を学んだ一番弟子といえる人物です。ダンの教えは町村によって、雨竜華族組合農場や十勝開墾合資会社農場などに生かされ、北海道内に米国式酪農が広がっていきました。



町村金彌
出典『町村金五伝』(北海タイムス社編 昭和19年(1944年)以前撮影)

その町村から教えを受けたのが、明治18年(1885年)に札幌に来た宇都宮仙太郎です。宇都宮は大分県に生まれ16歳で上京、自分の将来を考えていたとき牛乳搾取業者(牛を飼って牛乳を販売する業者)に興味をもち、北海道行きを決意します。札幌に入るとすぐ真駒内牧牛場に向かい、場長だった町村に雇われて仕事を始め、さらに本格的な技術と知識を身につけるため明治20年(1887年)から3年間米国へ渡り、ウィスコンシン州立農科大学などで学びました。

帰国後は町村のもと雨竜華族組合農場に勤め、26歳で独立し、札幌で牛乳搾取業を

開始します。最初は現在の北海道知事公館付近で牛3頭を飼って牛乳を販売し、民間人として初めてバターも製造、当時札幌でいち早く洋食を提供していた豊平館にも納入しました。

その後、宇都宮は東京で牧場経営を行いますが、明治31年(1898年)に札幌へ戻り大通9丁目付近で牧場を再開します。明治35年(1902年)には上白石(現在の白石区菊水1~3条3~5丁目付近)へ移転し、約20ヘクタールの原野に米国式の牛舎を建設して多い時は80頭以上の牛を飼い、近代的な酪農を開花させました。



宇都宮仙太郎



上白石の宇都宮牧場

関東大震災後、酪農家を救ったバター製造

明治28年(1895年)頃、宇都宮は10数名の仲間と北海道初の民間酪農団体「札幌牛乳搾取業組合」(のちのサツラク農協・雪印乳業の母体)を結成、組合長として酪農技術の普及に努めました。また、この組織が中心となって家族経営を基本とし、冷害に強いデンマークの農業を北海道に紹介しました。

大正4年(1915年)、札幌牛乳搾取業組合の中心メンバーが「札幌牛乳販売組合」を設立し、宇都宮は組合長となります。組合では酪農家が余った乳を練乳会社に出荷する際の適正な乳価の協定交渉、飼料の共同購入などを行いました。

大正12年(1923年)に関東大震災が発生すると、救援物資の増加などで輸入練乳が国内にあふれ、練乳会社が原料の仕入れを控えたため、零細経営の酪農家が窮地に陥ります。宇都宮は大正14年(1925年)、のちに北海道酪農義塾(酪農学園大学の前身)を

創設する黒澤西蔵、佐藤善七らとともに、デンマーク式の共同組合を参考に「北海道製酪販売組合」(雪印メグミルクの前身)を設立。バターの自主製造・販売を開始し、酪農家を救う一大事業を達成しました。

この時バターの製造は佐藤善七の長男で、のちに雪印乳業初代社長となる佐藤貢が、販売は黒澤西蔵があたりました。



設立当時の北海道製酪販売組合



北海道製酪販売組合が販売した「雪印北海道バター」と雪印マーク

知ってる？



米国仕込みの「3色アイスクリーム」

佐藤貢は北海道帝国大学(現北海道大学)から米国オハイオ州立大学に進み、乳製品の製造技術を学びました。帰国後、大正12年(1923年)に父の佐藤善七が札幌山鼻(現中央区南16条西8丁目付近)に開いた農場で「自助園アイスクリーム」を製造・販売します。このアイスクリームはチョコレート、ストロベリー、レモンの3色で、百貨店の食堂や洋食店、菓子店などで人気を博し、本格的なアイスクリーム製造の工業化のはりとなりました。



「自助園アイスクリーム」の広告(雪印メグミルク提供)

酪農の歴史を感じてみよう

北海道酪農の普及拠点であり、発展を支えてきた札幌のまちは今も各所で酪農の歴史文化を感じることができます。

クラークが開設した「農養園」は「札幌農学校第二農場」と改称し、明治42年(1909年)から大正元年(1912年)の移転・新築工事を経て昭和43年(1968年)まで北海道大学附属農場として教育研究が行われていました。現在は国の重要文化財として保存・公



札幌農学校第二農場

開され、都心部にありながら明治初期の酪農を実感できる貴重な場所となっています。

少し郊外へ足を伸ばしてみるのもおすすめです。南区真駒内にある「エドウィン・ダン記念館」は、明治13年(1880年)に開拓使真駒内牧牛場の事務所として建てられ、昭和39年(1964年)に現在の場所に移築、ダンの功績をしのぶ記念館として公開されています。

また、厚別区のひばりが丘団地のシンボルとして保存されている大きなサイロは、昭和2年(1927年)に設立した「旧馬場農場」のもので、当時の札幌とその近郊に建てられたサイロでは、最大級のひとつでした。

厚別区上野幌の雪印種苗園芸センター内にある「旧出納邸」は、宇都宮仙太郎の娘婿で宇納牧場を経営した出納陽一の自邸で、腰折屋根(ギャンブレル屋根)が特徴的で

す。敷地内には「雪印バター誕生の記念館」や「旧宇納牧場」のサイロも保存されています(これらの三施設は現在非公開です)。また、東区苗穂町にある雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館・札幌工場」には、バターづくりを開始した当時の道具をはじめ、北海道酪農の歴史を語る史料を展示しています。

歴史を感じつつ現代の酪農の魅力を実感できる場所といえば、昭和5年(1930年)に開校した豊平区月寒の「八紘学園」があります。園内の直売所では学生が実習で生産した新鮮な乳製品を購入できます。

ほかにも札幌市内には酪農に関連した場所や施設が数多くあります。実際に見たり触れたり、味わったりしながら、先人たちが築いた酪農の歴史に思いを馳せてはいかがでしょうか。



旧馬場農場のサイロ



旧出納邸

知ってる？



牛乳生産量100万石記念の彫刻

札幌の大通公園には多くの彫刻作品がありますが、戦後の第1号は昭和31年(1956年)、3丁目に設置された「牧童」です。北海道の牛乳生産量が100万石(約20万トン)を超えたことを記念し、酪農関係者が制作を依頼しました。作者の峯孝氏は京都出身で武蔵美術大学教授の彫刻家ですが、北海道にゆかりが深く、酪農にまつわる彫刻も数多く制作しています。同じく6丁目にある彫刻「奉仕の道」や「エドウィン・ダン記念公園」に建つ「エドウィン・ダン像」も同氏の作品です。



「牧童」



「エドウィン・ダン像」

知ってる？



牧草を貯蔵するサイロ

サイロは、牧草やトウモロコシなどの飼料を空気に触れないように保存し、付着する乳酸菌を活用して発酵させることで、長期間の保存を可能にする貯蔵施設です。木、れんが、石、コンクリートブロックなど、さまざまな素材が用いられてきました。札幌農学校第二農場に保存されているサイロは北海道で3番目に建設されたもので、現存する最古の円筒形石造サイロです。なお、現在は牧草をロール状に成形し、専用のラップで巻いて発酵させる「ロールベールラップサイロ」が主流になっています。



明治45 / 大正元年(1912年)に建てられた札幌農学校第二農場のサイロ(緑飼料貯蔵室)



牧草地に点在するロールベールラップサイロ

行ってみよう!

札幌農学校第2農場

札幌農学校初代教頭ウィリアム・スミス・クラークの後に着任したウィリアム・ホイラー設計の模範家畜房や穀物庫を中心とした酪農経営の施設を備え、一軒の畜産農家を模した実績「模範農場」として明治10年(1877年)に発足しました。農場内の各施設は当時アメリカ中西部の開拓地に広まった「バルーン・フレーム」とよばれる建築様式を採用しています。中でも模範家畜房は1階が家畜舎、2階が広い干草置場となっていて、北海道の風土に合った酪農を進めるモデル施設でもありました。現在、模範家畜房や穀物庫、牧牛舎は、内部も一般公開され、北海道の酪農のはじまりを実感できる貴重な場所となっています。また、長年にわたり収集された国内の農具、明治初期に輸入された農業機械などが多数展示され、農作業の歴史を知ることができます。昭和44年(1969年)に国の重要文化財となり、明治期の建築群として評価されるとともに、木々に囲まれた美しい景観なども重なり、多くの人々が訪れる観光名所となっています。北海道大学総合博物館が開催するガイドツアーも人気です。



📍札幌市北区北18条西8丁目 🎫無料
 🕒なし 🕒屋内公開(4月29日～11月3日)
 10:00～16:00、屋外公開8:30～17:00
 🚶地下鉄南北線「北18条駅」から徒歩約6分

北大マルシェ Café & Labo

北海道大学札幌キャンパスの農学部隣接する農場では、現在も明治22年(1889年)にアメリカから札幌農学校にきたホルスタイン種3頭の血統を受け継ぐ乳牛を飼育し、さまざまな教育研究に活用しています。同キャンパス内の北大マルシェ Café & Laboでは、この農場で生産した牛乳を使ったメニューを楽しむことができます。北大の牛たちは、夏は放牧草、冬は乾草とトウモロコシサイレージ中心のエサを食べて育ち、季節によって牛乳の風味が変わることが大きな特徴です。そうした変化を味わえる北大牛乳や、自家製ジェラート、プリン、自家製チーズを使ったグラタン、ピザなどを店内やテイクアウトで楽しむことができます。明治時代から続く伝統の牛乳を味わってみませんか?



📍札幌市北区北9条西5丁目
 北海道大学百年記念会館1階
 🎫なし 🕒10:00～16:00(L.O.15:30)
 🚶JR「札幌駅」から徒歩約10分

クラーク像を巡ってみよう!



北大構内の胸像

令和8年(2026年)に
 北大は創基150年!



羊ヶ丘展望台の立像

令和8年(2026年)は、
 50周年!

エドウィン・ダン記念館

エドウィン・ダン記念館は、明治9年(1876年)創設の開拓使真駒内牧牛場の事務所として明治13年(1880年)に建てられました。その後、真駒内牧牛場は明治19年(1886年)に真駒内種畜場と改称し、昭和21年(1946年)に米軍に接収されるまで、事務所として使われていました。解体される予定でしたが、昭和39年(1964年)に、同事務所の保存とダンの功績を後世に残すために有志が現在地へ移し記念館としました。その文化的価値が評価され、平成12年(2000年)に国の登録有形文化財、2007年(平成19年)に国の近代化産業遺産に認定されています。滝川市出身の洋画家・一木万寿三氏による、ダンの来日から晩年までを描いた油絵23点のほか、種畜場の模型やダンゆかりの遺品、当時のエピソードなどが数多く展示・紹介され、ダンの人柄を感じることができます。



📍札幌市南区真駒内泉町1丁目6
 🎫無料 🎫なし 🕒4月～10月 9:30～16:30(水曜休館)、11月～3月 9:30～16:30(金・土・日曜のみ開館) 🚶地下鉄南北線「真駒内駅」から徒歩約10分

雪印メグミルク 酪農と乳の歴史館・札幌工場

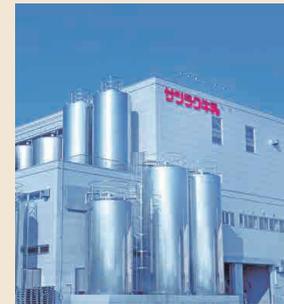
酪農と乳業の発展の歴史を後世に伝承するため、北海道製酪販売組合の創立50周年を記念し、昭和52年(1977年)に建てられました。貴重な資料や文獻のほか、北海道製酪販売組合でバターづくりを開始した当時の機械をはじめ、実際に使用されていた乳製品の製造機械などを展示しています。製造工程のミニチュア模型などが並び、乳製品製造の歴史やその工程がよく分かります。



📍札幌市東区苗穂町6丁目1-1 🎫無料 🎫あり 🕒9:00～11:30、13:00～17:00
 🚶札幌駅から中央バス東63苗穂北口線乗車、「北6条東19丁目」下車、徒歩約8分/札幌駅から中央バス「東63東営業所行き」乗車、「北6条東19丁目」下車、徒歩約8分

サツラク ミルクの郷

サッポロさくらんど内にあるサツラクミルクの郷は、サツラクの牛乳・乳製品を製造する工場「ミルク館」のほか、体験牛舎「牛の館」、のむヨーグルトやバター製造室の見学ができる「まきば館」があり、酪農と乳製品について楽しみながら学ぶことができます。ミルク館では充填工程を自由に見学可能で、牛の館では模擬牛による搾乳体験や牛を間近で見られるミニチュア牛舎が人気です。また、まきば館は工場直送の製品販売コーナーやレストラン、バーベキューハウスも併設しています。



📍札幌市東区丘珠町573-27 サッポロさくらんど隣 🎫無料 🎫あり
 🕒4月下旬～11月上旬(詳細はHPを確認) 🚶地下鉄南北線「北34条駅」または地下鉄東豊線「新道東駅」から中央バス東76丘珠北34条線乗車、または地下鉄東豊線「環状通東駅」から中央バス東61丘珠線乗車、「丘珠高校前」下車、徒歩約20分

ストーリーに関連する文化財

(令和8年3月時点)

文化財の名称	指定等の状況	所在地
北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学)第二農場	国指定重要文化財	北区北18・19条西7・8丁目(北海道大学構内)
北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学)第二農場収蔵資料(農機具等)	指定なし	北区北18・19条西7・8丁目(北海道大学構内)
バター、チーズ製造用具(雪印メグミルク酪農と乳の歴史館・札幌工場収蔵品)	さっぽろ・ふるさと文化百選	東区苗穂町6丁目1番1号
日本近代酪農発祥の地 宇都宮牧場跡	指定なし	白石区菊水1～3条3～5丁目付近
八紘学園資料館(旧吉田牧場畜舎・石造サイロ)	さっぽろ・ふるさと文化百選	豊平区月寒東1条13丁目3-16
旧馬場農場のサイロ	さっぽろ・ふるさと文化百選	厚別区厚別中央1条3丁目
旧出納邸	さっぽろ・ふるさと文化百選	厚別区上野幌1条5丁目1(現在非公開)
雪印バター誕生の記念館	指定なし	厚別区上野幌1条5丁目1(現在非公開)
旧宇納牧場サイロ	指定なし	厚別区上野幌1条5丁目1(現在非公開)
エドウィン・ダン記念館(旧北海道庁真駒内種畜場事務所)	国登録有形文化財	南区真駒内泉町1丁目6

ストーリーに関連する文化財をめぐってみよう!

